

## 第3章

### 大学の先進的取り組み調査

### 【インタビュー概要】

日時：2019(令和元)年8月1日

場所：石川県障害者スポーツ協会内会議室

回答者：金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科 井上明浩 教授

聞き手：河西正博（同志社大学スポーツ健康科学部）

尾鍋文光（公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団）

### 【取り組みの概要】

人間科学部スポーツ学科は2007年度に設立され、中学校教諭・高等学校教諭（保健体育）免許が取得可能であり、2014年度からは特別支援学校教諭免許の取得も可能になっている。また、初級・中級障がい者スポーツ指導員資格が取得可能となっている。

障害者スポーツに関わる授業として、アダプテッド・スポーツ論、アダプテッド・スポーツ演習（実技科目）、障がい児・者の運動指導法演習が開講されている。また、以上の科目に加えて、特徴的な取り組みとして、フィールド基礎演習、スポーツフィールド演習といった科目が開講されており、スペシャルオリンピックス日本・石川（以下、SON・石川）の地区競技会企画運営や地域のマラソン大会の障害者ランナーのサポート等を実習授業の一環として行っている。

#### 1. 障害者スポーツに関わる授業ならびに課外活動について

障害者スポーツに関わる科目については下記の4科目が開講されている(表1参照)。

**表1 スポーツ学科における障害者スポーツ関連授業一覧（筆者作成）**

1年次～：ボランティア概論

2年次～：アダプテッド・スポーツ論

3年次～：アダプテッド・スポーツ演習、障がい児・者の運動指導法演習（高齢者を含む）

上記の講義、実技、指導法の授業に加えて、特色ある授業として「フィールド基礎演習」「スポーツフィールド演習」が開講されている。

フィールド基礎演習は2年次必修の通年科目となっており、学科教員の専門領域に関わる学外プロジェクトが30件程度設定されており、学生はそのうち5つを選択してプロジェクトの企画立案、運営補助等を行っている。井上教授のプロジェクトでは

SON・石川の石川地区競技会の企画運営を行っている（表2参照）。参加学生は月に1回のスポーツプログラム委員会に出席し、9月の競技会本番の運営をする形となっている。また、履修学生には競技会運営のみならず、SON・石川の練習会への参加を促しており、ボウリングや陸上、水泳、卓球等のプログラムに有志が参加をしている。

**表2 フィールド基礎演習（井上教授クラス）概要（井上教授提供資料を一部改変・抜粋）**

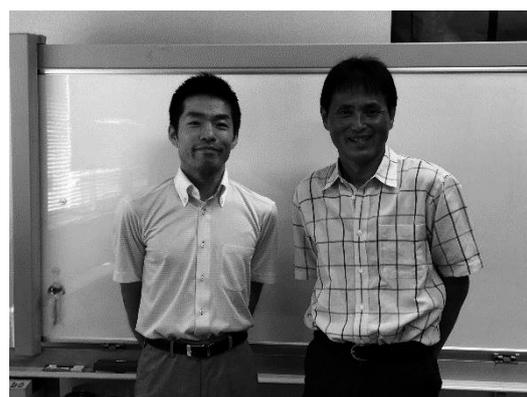
プロジェクトのねらい	障害者と健常者が障害の有無や年齢、性別を問わず一緒にスポーツ活動や競技会に参加することを通して、学生自身の多様性の現認やその享受を図り、もってコミュニケーション能力を高めることで、体験的にインクルーシブスポーツを学ぶ。
募集定員	20名
活動・学習内容	<p>【事前学習】SO 概要・知的障害の特性と支援法（講義） SON・石川スポーツプログラム参加</p> <p>【プロジェクト当日】競技会受付・誘導・案内・競技運営の業務遂行</p> <p>【事後学習会】大会終了後、反省会を実施</p>

スポーツフィールド演習は3年次必修の通年科目となっており、4年次の卒業研究に向けて各教員の専門領域において演習ならびに各種フィールドワークを実施している。井上教授のクラスでは、SON・石川のプログラムサポート、石川県内のマラソン大会の障害者ランナーのサポート等を行っている（表3参照）。

表 3 スポーツフィールド演習（井上教授クラス）概要（井上教授提供資料を一部改変・抜粋）

<p>演習のねらい</p>	<p>地域スポーツ現場のアダプテッドスポーツ実践から表象される様々な諸現象を哲学、社会学あるいは教育学的に分析、考察、検討する。スポーツフィールドの活動を通して、それらに関する文献・資料や調査から、自身の観察や分析、考察、検討する力を高める。</p>
<p>主な活動 *フィールドワークのみ抜粋</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加賀温泉郷マラソンアダプテッドサポート企画運営</li> <li>・SON・石川ヤングアスリートプログラムサポート</li> <li>・能登半島すずウルトラマラソンエイドステーション企画運営</li> <li>・金沢マラソン障害者ランナーサポート</li> </ul>

以上の正課授業での取り組みに加えて、石川県障害者スポーツ指導者協議会や、石川県障害者スポーツ協会加盟競技団体等からの依頼により、ボッチャ、カローリング、シッティングバレーボール、障害者サッカー等の練習会・イベント等に学生が積極的にボランティア参加をしている。また、SON・石川との連携の中で、3年ほど前から、ヤングアスリートプログラム（2～7歳頃の子どもたちを対象とした、スポーツを基本とした「運動遊び」のプログラム）のウォーミングアップを担当するなど、前述の授業内の活動に留まらず、各種フィールドでアダプテッド・スポーツに関心をもつ学生たちが積極的に活動をしている。



## 【インタビュー概要】

日時：2019(令和元)年7月15日

場所：大阪体育大学P棟アダプテッド・スポーツ実験室

回答者：大阪体育大学教育学部教育学科 植木章三 教授（学部長）

大阪体育大学教育学部教育学科 曾根裕二 准教授

聞き手：河西正博（同志社大学スポーツ健康科学部）

尾鍋文光（公益財団法人ヤマハ発動機スポーツ振興財団）

## 【取り組みの概要】

教育学部は2015年度に開設され、小学校教育コース（定員70名）と保健体育教育コース（定員55名）の2コースに分かれている。小学校教育コースでは、小学校教諭に加えて、中学校教諭・高等学校教諭（保健体育）もしくは特別支援学校教諭免許の取得が可能になっており、保健体育教育コースでは、中学校教諭・高等学校教諭（保健体育）に加えて、特別支援学校教諭免許の取得が可能になっている。また、2019年度入学生より初級・中級障がい者スポーツ指導員資格が取得可能となっている。

障害者スポーツに関わる授業として、講義・実技・指導法に加え「アダプテッド・スポーツ実習」が展開されており、担当教員3名の専門領域（子ども・障害児・高齢者）において、子どもの運動教室や特別支援学校の生徒を対象とした運動プログラム、高齢者の介護予防プログラムのサポートを行っている。

正課外の活動として、アダプテッド・スポーツ同好会が組織されており、車椅子ハンドボールやボッチャ等に取り組むと同時に、学外での障害者スポーツ関連のイベント等のサポート活動も行っている。

### 1. 障害者スポーツに関わる授業について

障害者スポーツに関わる科目については下記の4科目が開講されている(表4参照)。2019年度入学生から新カリキュラムが導入され、アダプテッド・スポーツ指導法が追加となり、障がい者スポーツ指導員初級・中級の資格取得認定校となっている。

**表 4 教育学部における障害者スポーツ関連授業一覧（筆者作成）**

<p>1年次～：アダプテッド・スポーツ論（2018年度以前は2年次以降に履修可）</p> <p>3年次～：アダプテッド・スポーツ実技、アダプテッド・スポーツ実習 アダプテッド・スポーツ指導法（2021年度から開講）</p>
---

上記の講義、実技、指導法の授業に加えて、特色ある授業として「アダプテッド・スポーツ実習」が展開されている。「アダプテッド・スポーツ」を広義のものとして捉えて、学部学生の多くが教職を目指す中で、教員として関わる学齢期の運動、スポーツのみならず、生涯スポーツとして幼児や高齢者（高齢障害者）等の取り組みを専門領域としている教員が実習先を確保し実践を行っている。現在は3名の教員が担当しており、子ども、障害児、高齢者を対象とした各種プログラムに学生が実習参加しており、ガイダンス・振り返りを除く全13回の実習に取り組んでいる。3つのうち1つのカテゴリーのみに参加するのではなく、他の2つのカテゴリーにも1回は出席する形となっており、より生涯を通じたスポーツ活動を意識できるような取り組みとなっている。

子ども運動教室については、幼児から小学生までの子どもを対象とし、「運動が好きな子ども、苦手な子どもや障害のある子どもとが一緒になって遊び楽しめる」（大阪体育大学HPより転載）をコンセプトに2012年にスタートしており、1年間に2期を基本に、1期あたり全10回、毎週木曜日に約1時間、約60人の子どもたちが様々な趣向をこらしたレクリエーションや運動に取り組んでいる。

障害児を対象としたプログラムは、「わくわくアダプテッド・スポーツクラブ」という名称で、特別支援学校に通学する障害児を対象に大学内で月に1・2回程度実施されており、履修学生や関連ゼミの学生が活動をリードしている。

高齢者の領域では、大阪府忠岡町地域包括支援センターが主催する「お元いきいき教室」内で、担当教員が講話とスポーツ指導を実施しており、履修学生が補助を行っている。プログラムに関しては、集団体操や筋力トレーニングだけではなく、ニュースポーツ等も取り入れられ、楽しんで運動できるよう工夫がなされている。

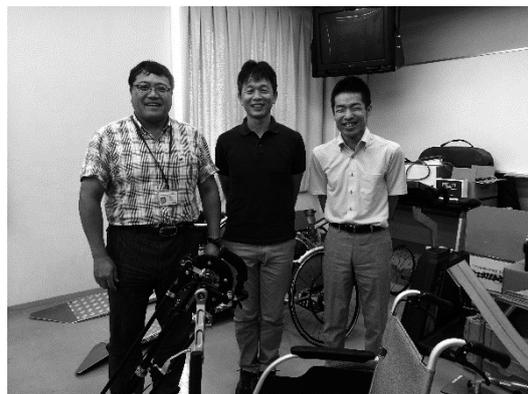
## 2. 障害者スポーツに関わる正課外活動について

学内に「アダプテッド・スポーツ同好会」というサークルが組織されており、毎週木曜日に大学体育館でボッチャや車椅子ハンドボール等の実践を行っており、2019年度は、日本車椅子ハンドボール競技大会、近畿リーグ戦やボッチャの大学選手権、日本財団主催のパラスポーツ運動会等に出場している。



アダプテッド・スポーツ同好会の活動の様相（同好会 Facebook ページより転載）

また、「教育出前講座プロジェクト」が展開されており、教育学部の教員が学校の教育実践研究を支援する地域貢献の取り組みとして、各学校の校内研究や研修会での指導助言や各種講座を提供している。最近では、小中学校での「パラ教育」と関連する依頼が増加しており、ボッチャ等の実技、アダプテッド・スポーツに関わる講義を実施している。



（河西正博）